

的になっていません。むしろこの世代が成長していく頃には、多様であることは当たり前になっているのではと思います。

外国人が日本で暮らすために必要なこととして、ことばを学べる場があるということです。日本語は日本社会で生きていく上で重要です。日本語ができるか否かで進学や就職においてかなりの格差が生まれます。日本に来た外国人が日本語を学ぶ機会が保障されるというのは重要で、そこはもっと充実させる必要があります。

同時に、子どもたちが、親のルーツのことばである継承語や、継承文化を学べる場も必要です。日本以外のルーツを持っていることを否定された経験を持つと自分に誇りが持てなくなり、そのことばを習得しようとは思わなくなるかもしれません。自分のルーツや自分らしさと結びつく文化的な背景を肯定的にとらえることが重要です。

### — 私たちに必要とされていること

個人の向き合い方でいえば、どれだけその人を尊重できるかが大事です。交通規則など日本のルールを知っ



てもらった必要がある場合がある一方で、いつでもどこでも「ここは日本だから日本のルールを守って」で済ませられるわけではありません。例えば、ムスリム（イスラム教徒）が（注）ハラール食品を求めているときに、「日本のやり方がありますので」というのではなく配慮が必要です。お互いのやり方を話し合いながら新しいルールをつくっていく柔軟さが必要かなと思います。

社会全体でいえば、外国人の権利はまだまだ保障されていません。人権というのは全ての人に保障されなくてははいけません。そして同時に、一人ひとりの違いも保障されなくてははいけません。それはアイデンティティや文化、宗教的な違いの保障です。大阪には多様な背景を持つ人が、話し合ったり、ときにはぶつかったりしな

がら、社会を築いてきた歴史があります。この中に新しく来た人たちがもっと入っていけるような形になったらと思います。

### — めざすべき社会

私は、一人ひとりの自己決定が反映されるような社会、自由に人生を決められるような社会が望ましいと考えています。もう少し日本で働きたいと思ったら働くことができ、学校に行きたいと思ったら学校に行くことができるといった、人生の選択肢が平等に保障されている社会です。

外国人には在留資格があり、様々な制限があります。例えば、家族滞在で日本に来た子どもが、高校卒業後に就職しようとしても難しいことがあります。なぜなら、家族滞在のビザでは週に 28 時間しか働けないからです。また、専門的な資格を取ろうと思えば、高卒だと難しい。ビザによって選択肢が狭められてしまいます。みんなが持てる力を最大限に発揮できる社会のほうがいいことが生まれると思いませんか。

日本人であれ、どんなルーツを持っている人であれ、その人自身の力が発揮できて、やりたいことが実現でき、その人らしく生きられるような社会というところから、外国人の人権について考えていけたらと思っています。

（注）イスラムの法に基づき食べることを許された食品。

